

## 令和2年度（第3回）薬学教育協議会生化学分野教科担当教員会議 議事録

日時：令和3年3月29日（月）12:30～13:00

場所：Web会議システム Zoom による開催

出席者：全国大学薬学部において生化学教育に携わる教員 83 名（代理出席者 1 名含む）

委任による出席者：10 名

### 配布資料

1. 会議次第
2. 出席予定者名簿
3. 生化学分野における現コアカリの問題点と新コアカリでの対応について寄せられた意見
4. 令和3年度 委員長校、副委員長校、参与校の選出について  
薬学教育協議会生化学分野教科担当教員会議開催日程について
5. 1) 生化学分野教科担当教員会議会則  
2) 生化学分野教科担当教員会議役員構成内規

### 会議内容

#### 1. 開会の辞

武田弘資委員長（長崎大学）より、開会の挨拶があった。

#### 2. 議長の選出

会則に則り、武田委員長が議長に選出された。

#### 3. 生化学分野における現コアカリの問題点と新コアカリでの対応について

武田委員長より、生化学分野における現コアカリの問題点と新コアカリでの対応について事前に寄せられた意見が紹介された。その後、参加者より下記の意見が寄せられた。

- ・核酸医薬や抗体医薬などの重要なキーワードから逆算して、基礎的な生物系薬学の知識を見直すという意見があったが、再生医療についても一緒に検討すべきである。

- ・コアカリにおいて、細かい規定を増やして教育内容の具体的な指示を期待する教員と、より大まか規定として大学独自のカリキュラムを重視したい教員との間で考えが統一されていないため、コアカリキュラムの「コア」の定義をもう少し明確にすべきである。

- ・実験、実習の充実を図るべきとの意見があったが、卒業研究でのアドバンスト教育を充実させるという方向性とのバランスが重要である。

- ・今後、項目を減らすのか項目を増やすのかという議論が必要になってくるが、増やすのであればアドバンストの部分だけで良いのではないかと。

・電気泳動、カラム操作、ビタミンなど、他の分野でも触れられる学際的な部分については、他の部会との協議が必要ではないか。

#### 4. 令和3年度委員長校、副委員長校、参与校の選出について

青木隆副委員長（北海道医療大学）より、令和3年度の参与校・参与として、名古屋市立大学・服部光治教授が推薦され了承された。よって令和3年度は、委員長校・北海道医療大学（青木隆教授）、副委員長校・明治薬科大学（紺谷圏二教授）、参与校・名古屋市立大学（服部光治教授）に決定した。（資料4）

#### 5. 令和3年度（第4回）薬学教育協議会生化学分野教科担当教員会議の開催について

令和3年度委員長の青木副委員長より、令和3年度（第4回）薬学教育協議会生化学分野教科担当教員会議を日本薬学会年会（第142年会、名古屋国際会議場 他）期間中に、年会会場またはWeb会議システムにて開催することが提案され了承された。（資料4）

#### 6. その他、閉会の辞

その他として、問題提起、意見、質問等を募ったが、とくに出席者からの発言はなく、武田委員長より閉会が宣言された。

以上、議事の経過及び結果を明確にするため、本議事録を作成する。

（記録者：参与 明治薬科大学 紺谷 圏二）

（事務局：長崎大学薬学部細胞制御学研究室）

令和3年3月30日

議長（委員長） 長崎大学 武田 弘資